

参考様式第1号

平成28年度

政務活動費支出伝票 (一般)

会派名 主体的市民の会 荒木明美

伝票番号 7

| 代表者 | 経理責任者 | 支出年月日 | 区分 | | |
|------------------------------|-------|----------|--|--------|--|
| | | 28年6月11日 | 調査研究費・研修費・広報広聴費・会議費 資料作成費・資料購入費 事務費 | | |
| 支払先 | | | | 支払金額 | |
| 函館葛屋書店 | | | | 3,672円 | |
| 摘要 (品名) | | 数量 | 単価 | 金額 | |
| 「街路樹を楽しむ15の謎」、 「公園・神社の樹木」 | | 各1冊 | - | 3,672円 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

領収書等は、領収書等貼付欄もしくは別紙に貼付のこと (重ならないよう留意)

【領収書等貼付欄】

領収書
主体的市民の会 荒木明美 様

領収日 2016年06月11日
領収書No. 0017218706
(伝票 No. 0017218706)

¥3,672-(税込)

(内 税抜 ¥3,400- 消費税 ¥272-)

書籍代 「街路樹を楽しむ15の謎」、「公園・神社の樹木」
上記正に領収いたしました 扱者

函館 葛屋書店 0138-47-2600

北海道函館市石川町85番1号




参考様式第2号

平成28年度

政務活動費支出伝票（旅費）

会派名 主体的市民の会

伝票番号 8

| 旅行承認年月日 | 代表者 | 経理責任者 | 支払年月日 | 区 分 |
|---|---|---|------------|---------------|
| 平成28年7月5日 |  |  | 平成28年7月20日 | 調査研究費 ・研修費 |
| 氏 名 | 金 額 | 受領印 | 受領年月日 | |
| 1 荒木 明美 | 18,780円 |  | 平成28年7月20日 | |
| 2 | | | 年 月 日 | |
| 3 | | | 年 月 日 | |
| 4 | | | 年 月 日 | |
| 5 | | | 年 月 日 | |
| 支払金額合計 | | 18,780円 | | |
| <p>旅行の目的</p> <p>青森市役所、青森県庁にて、企業支援、観光マーケティング施策について調査のため。</p> | | | | |
| <p>用務地 青森県青森市</p> | | | | |
| 旅行の行程 | | 旅費の内訳（1人当たり） | | |
| 7/26 | 函館⇄青森（JR） | 路線バス、私鉄 | | |
| / | | J R | | 15,780円 |
| / | | 航空賃 | | |
| / | | 日 当 | | 3,000円 |
| / | | 宿泊費 | | |
| / | | 参加費 | | |
| / | | その他 | | |
| / | | 合 計 | | 18,780円 |

領収書等は、別紙に貼付のこと（重ならないよう留意）

領 収 証

(RECEIPT)

No. 1231234567

(印 紙)

ご氏名 主体的市民の会 荒木明美 様

クレジットカードの場合
は不要

| | | | | | | |
|----|---|----|----|----|----|----|
| 金額 | 位 | 十位 | 百位 | 千位 | 万位 | 円 |
| | | | 1 | 5 | 7 | 80 |

ただし ① JR券 2. 航空券 3. 宿泊券 4. レンタカー
5. 国内旅行パック 6. 海外旅行パック
7. 定期券 8. その他 ()

| | | |
|-------|-------------------------------------|--|
| 現金 | <input checked="" type="checkbox"/> | ¥ |
| クレジット | <input type="checkbox"/> | ¥ |
| カード | 会社名 | 日専連 JCB VISA UC DC MASTER その他() |
| | 旅行券 | ¥ |
| 銀行振込 | <input type="checkbox"/> | ¥ |
| | <input type="checkbox"/> | ¥ |

平成 28 年 7 月 20 日 上記の金額領収致しました

(注) 金額を訂正したもの、取扱者印又はサインのないものは、無効でございます。

北海道旅客鉄道株式会社 取扱者
Hokkaido Railway Company
〒060-8644 札幌市中央区北1条西5丁目1番1号
函館駅 発行箇所

出張報告書

平成28年 8月 10日

主体的市民の会 荒木明美 様

出張者氏名 荒木明美



下記のとおり出張したので報告します。

記

| | |
|--------|---|
| 1 出張期間 | 平成28年 7月 26日 (1日間) |
| 2 用務地 | ① 7月 26日 青森県青森市 |
| | ② 月 日 市・町 |
| | ③ 月 日 市・町 |
| | ④ 月 日 市・町 |
| 3 出張概要 | 青森市役所 日時 平成28年7月26日(火) 10:00~12:00 場所 青森市役所 議会会議室 |
| | 青森県庁 日時 平成28年7月26日(火) 14:30~15:30 場所 青森県庁内会議室 |
| 4 所見 | 別紙。 |
| 備考 | |

青森行政視察

主体的市民の会 荒木明美

日時：平成 28 年 7 月 26 日(火) 10:00～12:00 (青森市) 14:30～15:30 (青森県)

会場：青森市役所、青森県庁

青森市役所：「がんばる企業応援事業」について。中小企業・起業/創業支援にまつわる事業の概要、成果、課題、新幹線対策(対函館)といった函館との関係性を知りたい。

がんばる企業応援事業について

青森市経済部あおもり産品・企業支援課

背景情報

青森市の産業大分類別に見た事業者数の 1～3 位は「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」で、全事業所数の 52%にあたる。

がんばる企業応援事業の背景

青森市の工業は食料品製造業が大きな割合を占めており、加工組立型の業種は低い。そこで H12 年に経済波及効果が高く高付加価値を生みやすい「ものづくり産業の振興」を重点施策とし、事業の熟度に応じた支援を行ってきた。年々、市の考えと事業者の支援ニーズにギャップが出てきたため、現状分析と新たな事業展開が求められ、H21 年度に市内企業の訪問調査を行い、市内企業が直面している課題やニーズ調査により課題を整理した。

課題 1 シーズの発掘・育成 (市の製造品出荷額引き上げを目標にしていたため、事業規模の大きい取り組みが対象となりやすく、結果として小さな取り組み(シーズ)の発掘や育成がおろそかだった)

課題 2 ものづくりの定義 (H12 年策定「青森市ものづくり産業振興計画」では金型、鍛造、金属プレス加工、溶接等に限らずソフトウェア・サービス業も支援対象としていたが「ものづくり」という言葉から工業・製造分野以外の事業者が応募しにくいイメージを持たれた)

課題 3 経営革新支援 (経営革新の考え方が分かりにくく、支援内容がものづくり支援と重複していた)

課題 4 産学官連携 (産学官が連携できる組織が存在しなかった)

支援メニュー

- ・企業訪問調査
- ・がんばる企業応援助成金
- ・産業財産権取得促進助成金
- ・がんばる企業交流会
- ・起業・創業等相談ルーム
- ・新製品開発助成金
- ・工場用地等取得促進助成金
- ・新商品開拓者認定

平成 28 年度の新たな取り組み

○青森と首都圏をつなぐビジネス交流拠点構築事業（首都圏ビジネス交流拠点、あおもり地域ビジネス交流センター(共に東京都港区赤坂)、あおもり地域ビジネス交流センター(青森の拠点)、事業者等の経営課題に係るワンストップ相談窓口。

青森県：「観光地域づくりマーケティング支援事業」について。それに至る背景、概要及び青森県事業におけるマーケティングの意識について知りたい。

観光地域づくりマーケティング支援事業について

青森県観光企画課企画戦略グループ

青森県は、平成 26～30 年度を未来へのあおもり観光戦略セカンドステージと定め、戦略目標を「“A” OMORI 観光は、“A” ランクを目指します！～回復から成長へ。ネクスト“A”計画」として取り組んでいる。住んでよし、訪れてよしの「あ」ずましさで、地域を誇る県民一人ひとりの「お」もてなしで、国内外から選ばれる「もり」だくさんの魅力で A ランクをめざすとのこと。4つの基本方針は以下の通り。

- ・地域に誇りをもち、地域の魅力を高めます
- ・旅行形態の変化に対応します
- ・強みを極めて、情報発信や誘客の的を絞ります
- ・ブランドイメージを世界へ発信します

具体的数値目標としては、平成 30 年の延べ宿泊者数 550 万人泊 (H24 から 20%増)、外国人延べ宿泊者数 8 万人泊 (H24 から倍増)。観光客の満足度は 100% (H24 は 81%)、観光消費額は 1,800 億円 (H24 から 20%増)。

「みんなで取り組む観光地域づくり 一人ひとりが「おもてなし」の主演です。」とした上で、以下に挙げる 4 者の連携協働（役割分担）を明確に打ち出している。

「県民」、「観光団体・観光事業者」、「団体事業者（商工、農林水産団体、地域活動の団体、事業者等）」、「行政(市町村、県)」。

その他、青森県観光国際戦略局が作成している「青森県観光入込客統計」資料を用いて、現状についての説明を受けた。

観光地域づくり力強化促進事業

現状と課題：観光客のニーズは、個人客の増加、体験型観光への移行などにより多様化、高度化。全国的な観光振興への取り組み促進、国内市場の縮小により地域間競争が激化 → 観光客の多様化・高度化するニーズを的確に把握し、地域資源を最大限に活用しながら、それに応える地域ならではの魅力を伝える取り組みが必要。

地域間競争に打ち勝ち、観光客の流れを創出していくためには、地域が一体となって「観光地経営」の視点で戦略的に観光地域づくりを進めることが必要。

事業内容：

1. 観光地マーケティング調査 (15,500 千円)
2. 観光地経営塾の開催 (3,640 千円)
3. 青森版 DMO 研究会の開催 (3,011 千円)
4. 大学生観光まちづくりコンテストの共催 (3,049 千円)

事業効果：

「観光地経営」の視点から観光地域づくりについての意識醸成と地域を担う人財育成。将来を担う若者の観光に対する取り組みの促進と新たな地域の魅力の発掘。観光地域づくりの中心となる組織・機能の必要性に対する意識醸成。

観光庁観光統計(宿泊旅行統計調査 平成 27 年年間値)から、客室稼働率をみると、全体で 60.3%。ねぶたの時期でも 80%を超えることがないとのこと。

年間宿泊者数は青森県全体で 500 万人程度(前年比+11%)。初めて 500 万人を超えた。北海道の 3260 万人に比べるとまだまだ。外国人宿泊者数は、12 万人(前年比+61%)。そのうち、台湾からが 2 万人。

青森市の取り組みは、これまでやってきた事業の振り返りを行った上で、今は何が求められているのかを聴取し施策に反映させている。その過程を聞くと、事業評価の仕組みが機能しているように感じた。また説明の端々から感じたのは、職員がよく地元企業をまわっている、生の声を拾っているということであった。現場が抱える課題の解決のために政策を立案するという姿勢が感じられた。特に、青森と首都圏をつなぐビジネス交流拠点構築事業では、国の地方創生基金を活用して、東青地域(青森市、平内町、今別町、蓬田村、外ヶ浜町)が連携して首都圏と地元にてテレワーク機能のあるビジネス交流拠点を設置している。正念場は、交付金(1年)がなくなる2年目~だと思うが、赤坂に拠点がある「あおもり地域ビジネス交流センター」はいずれ見学してみたいと思う。

函館市においても近隣市町村と連携して企業・起業サポートを行っている。各事業が点ではなく、それぞれつながり、全体として大きな力が発揮できて、成果を追求できればと感じた。

青森県の取り組みは、今回行政視察を行った「観光分野」に限らず、以前からマーケティングを意識した取り組み行われているように感じており、注目してきた。北海道新幹線が開通したことにより、北海道(函館)側にメリットがあるものの、青

森県側もこのチャンスをどう活かすか(国内観光客増に向けて)、きちんと考えられていたことが分かった。今回行政視察を行ったことで、これまでは感覚でしか捉えられなかった「マーケティングに力を入れている印象」が確信に変わった。それは、説明いただいた観光国際戦略局主幹の説明の端々からマーケティングを意識していることがよく分かったからである。マーケティングを活用した発想が根付いているからこそ端々に表れるのだと思う。「(荒木がマーケティングの専門家なので)恥ずかしいのだが」といった発言からも、私のバックグラウンドを把握した上で説明にのぞまれたことが分かった。とにかく、こういう発想の行政マンが担当ならば、きちんと戦略が遂行され結果が出るのではないかと思わせる方であった。また「北海道のような規模の観光地ではないので…」という発言もされたが、だからこそこれから伸びるための方策や差別化ポイント、自分たち(青森県)が強みとして活かせる部分の把握とその分野への投資、といった戦略をきちんと立てており、それが県・市町村でかぶらないように役割分担して全体像ができていく印象を受けた。(将来に対する危機感を持ち、現状を冷静に分析し、全体像をきちんと把握した上で、それを適材適所に割り振っている)

函館にとって観光分野は重要であり、今後も市の運営にとって交流人口増は大きな指標であると感じている。その中で、先々を見据えた戦略が出来ているのか、観光客増が一過性で終わらないような分析・仕組みを考えているのか、といった点について今後の市の動きを見ていきたいと思う。

参考様式第1号

平成28年度

政務活動費支出伝票（一般）

会派名 主体的市民の会 荒木明美

伝票番号 9

| 代表者 | 経理責任者 | 支出年月日 | 区分 | | |
|---------------|-------|----------|---|--------|--|
| | | 28年8月26日 | 調査研究費・研修費・広報広聴費・会議費 資料作成費・ <u>資料購入費</u> ・事務費 | | |
| 支払先 函館蔦屋書店 | | 支払金額 | | | |
| | | 3,672円 | | | |
| 摘要（品名） | | 数量 | 単価 | 金額 | |
| 地域医療を支える自治体病院 | | 1冊 | — | 1,512円 | |
| ナーシングビジネス8月号 | | 1冊 | — | 2,160円 | |
| | | | | | |

領収書等は、領収書等貼付欄もしくは別紙に貼付のこと（重ならないよう留意）

【領収書等貼付欄】

領収書
主体的市民の会 荒木明美様

領収日 2016年8月26日

領収書No. 002 55341

(伝票 No. 02 55341)

¥3,672-(税込)

(内 税抜 ¥3,400- 消費税 ¥272-)

但し、地域医療を支える自治体病院、ナーシングビジネス8月号。

上記正に領収いたしました

授者

函館 蔦屋書店

0138-47-2600

北海道函館市石川町85番1号

領収書

H28.8.26 確認済



参考様式第1号

平成28年度

政務活動費支出伝票（一般）

会派名 主体的市民の会 荒木明美

伝票番号 10

| | | | |
|--|--|-------------------|---|
| 代表者  | 経理責任者  | 支出年月日 28年9月15日 | 区分 調査研究費・研修費・広報広聴費・会議費 資料作成費・資料購入費 事務費 |
| 支払先 株式会社 長門出版社 | | 支払金額 2,900円 | |
| 摘要（品名） | 数量 | 単価 | 金額 |
| 平成28年版 南北海道市町村職員録 | 1部 | - | 2,900円 |
| | | | |
| | | | |

領収書等は、領収書等貼付欄もしくは別紙に貼付のこと（重ならないよう留意）

領 収 証

N0002621

平成 28 年 9 月 15 日

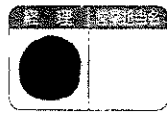
主体的市民の会様

| | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 金額 | 千 | 百 | 十 | 万 | 千 | 百 | 十 | 円 |
| | | | | 2 | 9 | 0 | 0 | |

但し 1部のみ
上記の金額正に領収いたしました。

| 品名 | 金額 | 消費税 | 合計 |
|-------|------|-----|------|
| 印刷複製費 | 2900 | | 2900 |
| | | | |
| | | | |
| 合計 | | | 2900 |

 株式会社 **長門出版社**
 代表取締役 **長門 秀 嗣**
 本社 長門市日乃出町1番13号 TEL: 0138(53)2461 FAX: 0138(53)2340

(現金預り書)
No. 

内 全
小切手
手形
郵便振込
記

※ 社印、代表者印、扱者印なきものと領収書の金額及び年月日訂正は無効です。